

第79回麻布獣医学会 一般講演1

産業動物臨床基礎学習の実施2年目の評価と問題点

武藤 眞, 入来 常德, 恩田 賢, 金子 一幸, 伊東 正吾
押田 敏雄, 川上 静夫, 若尾 義人, 和田 恭則

麻布大学・獣医学部獣医学科

【目的】

昨年度から始まった獣医学科1年次を対象とする本実習（前期 1単位）の目的は、動物病院に入院した産業動物を管理することによって、臨床に必要な基礎的事項を体験的に習得させることにある。実習終了時に産業動物に関する学生の認識等を把握するためにアンケート調査を本年度も実施した。

【方法】

今年度は、馬の講義と実習を追加し、週1回の講義12回（1時間）と前半、後半に分けた実習（2時間）を実施した（昨年度はほとんど講義のみ）。さらに20班に分けた朝・夕の実習（実技；5日間、2時間/日）を産業動物繋留室で行い、最後に実習報告会を開催した。

【結果】

今年度の履修者は111名（全体の76%）で、昨年度の31%増であった。履修者の出身地は関東（62%）が最も多く、次に九州・沖縄（12%）、近畿（10%）であった。卒業後の就職希望先は小動物臨床（54%）と未定者（15%）を除けば、他の分野はいずれも

10%未満であった。さらに履修者の約90%は、これまで牛、豚、馬に接した経験がほとんどなかった。今回は講義3時間を講義1時間と実習2時間に変更したことにより、講義の評価は10%改善され、実習の満足度も極めて高かった（91%）。講義内容で評価が高かったものは豚、牛乳、馬、一般検査（15～20%）で、牛は10%であった。実習内容では馬と牛が20～24%、乳牛と豚が14～17%であった。その結果、実習全体の評価では、よかったとする学生は昨年度より22%上昇し89%であった。実技では特に搾乳（34%）、哺乳（24%）、手術見学（21%）に関心が高かった。実際に動物に触れた印象としては、動物の大きさ・温かみ（22%）、可愛い・大人しい・繊細である（24%）、楽しく新鮮であった（22%）こと実感している。産業動物臨床の見方が変わったとの意見（97%）は昨年度に比べて53%上昇し、今年度の授業計画の変更がストレートに反映されたものと考えられた。しかし、講義の方法や実技の人数等さらに工夫すべき点が指摘されたことから、次年度の授業計画は今回の調査結果を基に検討する必要があると考えられた。